

令和 8 年 8 月 3 日

会津若松市長 室井 照平 様

会津若松市総合計画審議会
会 長 岩崎 由美子

会津若松市総合計画について（答申）

令和 7 年 10 月 28 日付け 7 企第 930 号で諮問のありました標記の件につきましては、会津若松市総合計画審議会条例第 2 条の規定に基づき、慎重に審議を行った結果、別紙のとおり結論を得たので答申します。

本審議会では、市長から諮問のあった会津若松市総合計画について、各委員の知見や学識等をもとに様々な視点から慎重に審議を重ねてきました。

その結果、本審議会は、「会津若松市第8次総合計画基本構想及び基本計画(案)」について、下記1から4の理由により、妥当であると認めます。

1. 基本構想に掲げられている「基本理念 みんなの未来ビジョン」が、市民や事業者とともに実現したい未来の会津若松市の姿として位置づけられており、「みんなで」まちづくりを進めていくことが示されていること。
2. 基本構想及び基本計画が分かりやすく体系化されていること。とくに、「まちづくりアクション」として、複数の政策を分野横断的に連携させて、様々な行政課題にアプローチしていく視点が採用されており、政策間連携による効果が期待されること。
3. 人口減少という現実を真正面から受け止めながら、市民の生活の質やウェルビーイングの維持・向上を目指す「スマートシュリンク(賢く縮む)」の考え方を取り入れ、人口推計などの客観的なデータをもとに、これからの10年を見据えた現実的な計画となっていること。
4. 若者や女性に選ばれるまちの実現や、鶴ヶ城周辺エリアデザインの推進など、中長期的な観点から、次の世代に会津若松市を引き継いでいくために必要と考えられる政策や施策等が新たに盛り込まれていること。

なお、計画の推進にあたって、さらなる配慮を求める事項があります。計画の実効性を確かなものとするため、以下の事項について特段の配慮を払うことを強く求め、附帯意見として添えます。

附帯意見

1. 次代を担うひとづくり

先人たちから受け継いだ「ひとづくりこそ地域発展の礎」という信念のもと、未来の会津若松市を担う人材の育成や教育の充実を図るとともに、若者が地域コミュニティの一員としてまちづくりに参画し、活躍できる環境づくりに取り組んでいただきたい。

2. 世代を超えた支え合いの仕組みづくり

少子高齢化が進む中であって、こどもから高齢者まで誰もが幸せに暮らしていけるまちづくりを進めるためには、世代を超えて「お互い様」の意識を共有する支え合いの仕組みが不可欠であることから、高齢者が地域の中で活躍しながら、健康に生活できる環境づくりを進めるとともに、多世代が日常的に交流できる機会の創出に取り組んでいただきたい。

3. 地域経済の持続的な発展に向けた取組の推進

他地域との差別化を図る観点から、鶴ヶ城をはじめとする観光資源のさらなる磨き上げや会津産農産物のプロモーション強化に取り組むとともに、スマートシティ会津若松の取組を通じて地域資源やデータを活用した新たな価値創出を進めていただきたい。あわせて、交流人口・関係人口の拡大に取り組みながら、地域を中心に経済やまちづくりを考える「ローカルファースト」の視点を取り入れ、地域内で経済の好循環を生み出す取組を強化していただきたい。

4. 人口減少を見据えた行財政運営

高齢化の進行に伴う社会保障関連経費の増加や、生産年齢人口の減少による将来的な税収減が懸念されていることから、第8次総合計画に基づくまちづくりを進めるにあたっては、行財政運営の健全性の確保に取り組んでいただきたい。また、各種事業や取組を進める際には、人口減少を見据えた制度設計とするとともに、市民がいつでも、事業や取組の効果などを評価・検証できる透明性の高い仕組みを構築していただきたい。

5. 市民とのコミュニケーションの質の向上

市民との参画・協働をさらに進めていくため、市民の市政に対する関心や理解が高まるよう、市による情報発信や意見聴取の方法をさらに工夫するとともに、市政情報の「見える化」や市民へのフィードバック方法の改善に取り組み、市民とのコミュニケーションの質の向上に努めていただきたい。

6. 地域防災力の強化

気候変動の影響により、自然災害が激甚化・頻発化している中、誰もが安全・安心に暮らすことができるまちづくりを進めるため、市民の防災意識の向上や自主防災組織の設立・運営支援など、地域防災力の強化に取り組んでいただきたい。

7. 「会津若松市らしさ」を活かした人口減少対策の展開

市が直面する人口減少に対しては、市民と問題意識を共有しながら、「若者や女性に選ばれるまち」の実現を目指し、「会津若松市らしさ」を最大限に活かした対策を展開していただきたい。

例えば、こどもたちが遊びながら本市の歴史や文化を学べる場を提供するなど、市民の中に地域への愛着やシビックプライドを醸成するとともに、就労環境の整備や子育て環境の充実などを通じて、市外や県外に転出した方が、「また戻りたい」、「再び暮らしたい」と思えるような魅力あるまちづくりを推進していただきたい。